

Kakamigahara
Encyclopedia

特集

学制150年

近代学校のはじまり

CONTENTS

特集	学制150年「近代学校のはじまり」	02
調査速報	市内最大の古代集落跡	06
事業報告	刊行に向け進む執筆作業	07
	石器の魅力 大集合!各務原市の石器	08
	戦国の各務原	10
	横山潤之助展 -新しい記憶-	12
	高校生が見た各務原空襲	13
各務原を知る	図解・オオサンショウウオ	14
TOPICS	令和に甦った幕末のピアノ	16

学制150年 近代学校のはじまり

各務原市の小学校のルーツを探る

令和5年（二〇二三）11月、創立150周年を迎えた各務原市内の小学校6校で、記念式典と関連行事が行われました。明治6年（一八七三）に産声を上げた市内の小学校は、近代学校としての歩みをどのようにスタートさせていったのでしょうか。市内小学校のルーツを探ります。

義校方式による学校の創設

明治5年（一八七二）8月2日、「村に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」として、身分、階層、性別を超え、教育の機会をすべての国民に開く国民皆学の理想を掲げ、学制が公布されます。しかしながら予算的な裏付けはなく、岐阜県は、一刻も早く学校を創設するため、義校方式によって学校を設立することを管内に指令しました。義校とは、地域の有志が金品を寄付するなど、官費に頼らずに設立した学校のことです。こうして翌6年には、寺や民家を仮校舎として、現在の各

務原市域に、洗心舎（現那加第一小）、和親舎（現蘇原第一小）、新々義校（現鵜沼第一小）、三省義校（現各務小）、不惕学校（現稲羽東小）、敬恪義校（現稲羽西小）、博文義校（現川島小）の7校が創設されました（図1）。学校運営費の多くは地域の有力者からの寄付金で、残り少ない地域で、『洗心舎小学義校開業願書』によれば、洗心舎では、運営費125円のうち70円を有志助成金で、残りを授業料と戸数割で賄いました。

学校創設時の就学率は、熊田村（和親舎）では23%（明治6年）、鵜沼村（新々義校）では26%（明治7年）と低く、不就学理由は「困窮」となっ

ています。「生活が苦しかったために授業料が払えなかった」と、「農家にとって子どもは重要な働き手であった」ことが要因でした。特に女子の就学率は低く、熊田村（和親舎）では11%（明治6年）、鵜沼村（新々義校）では12%（明治7年）でした。

校舎の新築、移転、分立

各務原市域の学校は、寺や民家を仮校舎として発足しましたが、児童数に対して校舎が手狭で、また、校区が広く通学が不便でした。そのため、学校が創設されて間もなく、校舎の新築、移転、分立が行われました（図2）。

洗心舎（大願寺）と和親舎（根本寺）、三省義校（慈眼寺）は、それぞれ手力雄神社、加佐美神社、村国神社の舞台（写真1）に移転し、洗心学校（明治7年移転・改称）、和親学校（明治8年移転・改称）、各務学校（明治9年移転・同10年改称）と改称します。その後、さらに分立していきまし。新々義校（旧鵜沼宿本陣）は、学校の位置が村の北部に偏り、また手狭になったため、南北の両校に分立し、

それぞれ鵜沼北校、鵜沼南校と改称（明治8年）。博文義校（西養寺）は木曾川の中州である松原島にあったため、どこから通学するにも渡船が必要で、夏季降雨の季節になると増水し、通学上の危険も多かったため、島ごとに分立しました（明善舎、小網島義校、松倉義校）。博文義校はその後、児童数が増加し校舎が手狭になったため、新築移転し、川島学校（明治10年）と改称します。不惕学校（桃春院）も同様に、校舎が手狭になったため、矢熊山の西麓に校舎を新築し、時習学校（明治16年）と改称しました。

民家を仮校舎として開校した敬恪義校は、明治8年、木造総2階の和風建築に、2階のベランダや玄関をアーチ状にするなど、和洋両方の要素を取り入れて新築されました（写真2）。そしてこのころ、敬恪学校と改称されます。近代的な校舎は、文明開化の、そして住民の眼を教育に向けさせるシンボルにもなりました。その校舎が洋風であれば、衝撃はより強いものになり、義校方式で建てたものならば、なおさら地域の誇りとなりました。



写真1 現在の村国座



不惕学校（桃春院）

不惕学校/現稲羽東小学校。前渡村桃春院を仮校舎として創設。教員3人、児童男子51人、女子1人。



新々義校（鵜沼宿本陣跡）

新々義校/現鵜沼第一小学校。鵜沼村桜井古兵衛宅（旧本陣）を仮校舎として創設。教員3人、児童男子127人、女子25人。



洗心舎（大願寺）

洗心舎/現那加第一小学校。長塚村大願寺本堂を仮校舎として創設。教員4人、児童男子90人、女子15人。

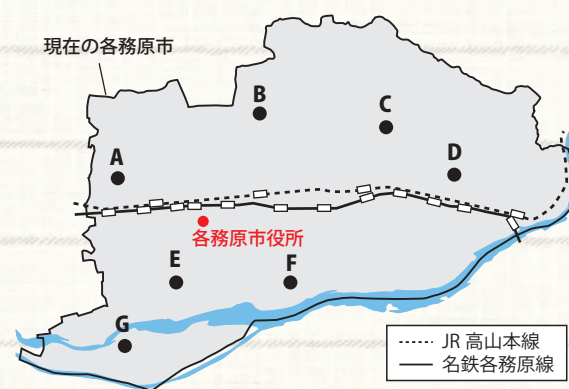


図1 明治6年に創設された各務原市内の小学校



写真2 明治8年に新築された敬恪学校
（『岐阜県管内学校撮影』より 宮内庁書陵部所蔵）



博文義校跡（西養寺内）

博文義校/現川島小学校。松原島村西養寺を仮校舎として創設。教員3人、児童男子87人、女子17人。



敬恪義校跡

敬恪義校/現稲羽西小学校。下中屋村の民家を仮校舎として創設。教員3人、児童男子301人、女子9人。



三省義校（慈眼寺）

三省義校/現各務小学校。各務村慈眼寺を仮校舎として創設。教員3人、児童男子90人、女子15人。



和親舎跡

和親舎/現蘇原第一小学校。古市場村根本寺を仮校舎として創設。教員3人、児童男子87人、女子12人。

※教員数・児童数は、
明治8年調査による

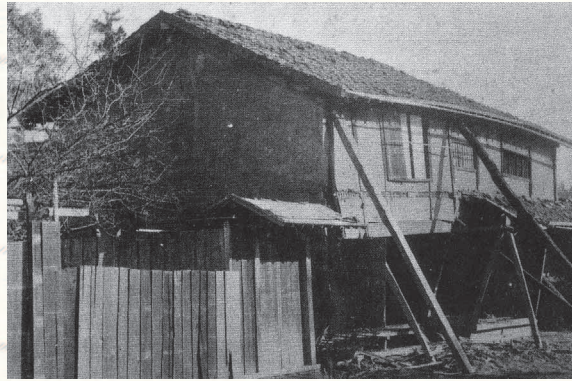


写真3 濃尾地震で傾いた鵜沼尋常小学校
(梅田義則氏旧蔵)

明治24年(一八九二)10月28日午前6時37分、日本の内陸で発生した過去最大級の巨大地震、濃尾地震(マグニチュード8)が発生します。地震発生が、児童の登校前であったため、学校内での死傷者はいませんでした。校舎は大きな被害を受けました。

濃沼北尋常小学校では、校舎は傾き、器具はことごとく破損し、帳簿類は泥にまみれました。そのため、学校は校長宅を仮校舎として再開するまで、1カ月間休校となりました。

濃尾地震と学校

(写真3)。

和親尋常小学校は、当時加佐美神社境内にありましたが、校舎は南に30〜40度傾き、屋上の瓦は残らず散

落し、支柱は折れ、天井は落下しました。また、学校の器具・帳簿類も大半が破損したため、同年11月25日まで休校となりました。

各務尋常小学校では、同年9月に校舎が改築されたばかりでしたが、わずか1カ月後の濃尾地震により全壊しました。授業が再開したのは、同年12月24日のことでした。

学校再開直後は出席児童も少なかったものの、翌年5月頃になるとその数は震災前に戻ってきました。しかし、「冬に至ると、壁土や床板が散落してすき間だらけであったため、四方より寒風が吹き通し、あたかも身体に刺すが如き」(『和親尋常小学校震災小誌』)状態でした(写真4)。そのため、一刻も早い新校舎の建設が待ち望まれていました。

市町村制の導入(明治22年)と第二次小学校令(明治23年)により、小学校の設置義務が市町村に課せられたこともあり、震災から2年後の明治26年、各務尋常小学校の新校舎が現

近代学校教育制度の完成

明治33年の第三次小学校令により、義務教育4年制が確立し無償化されると、就学率は上昇し、明治38年には96%に達しました。明治40年

在地に落成、時習学校も前渡尋常小学校と改称されて新校舎に移り、明治30年には前宮尋常小学校と改称されました。明治27年には、鵜沼北南尋常小学校が統合され、現在地に新校舎が落成し、鵜沼尋常小学校と改称。和親尋常小学校も同年、古市場に新校舎が落成し、古市場尋常小学校と改称、明治30年には蘇原尋常高等小学校と改称されます。同年、那加地区にあった3校が統合され、現在地に新校舎を建設して移転。那加尋常小学校と改称されました。

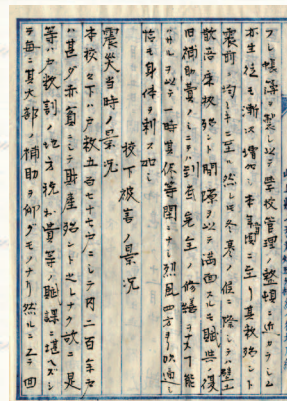


写真4『和親尋常小学校震災小誌』

には義務教育期間が6年に延長され、近代の学校教育制度はほぼ完成をみます。明治44年には就学率98%となり、国民皆教育の理想が実現されました。

就学率の向上や義務教育の延長により、児童数が増え、各務原地域の学校では校舎の新築、増改築が行われます。明治41年には、5校が統合されて川島尋常高等小学校(写真5)が現在地に新築移転し、蘇原尋常高等小学校も明治45年に現在地に新築移転しました。学制公布から40年を経て、現在の各務原市域の小学校の原形ができたのです。

(鷲見隆司)



写真5 川島尋常高等小学校(大正5年)

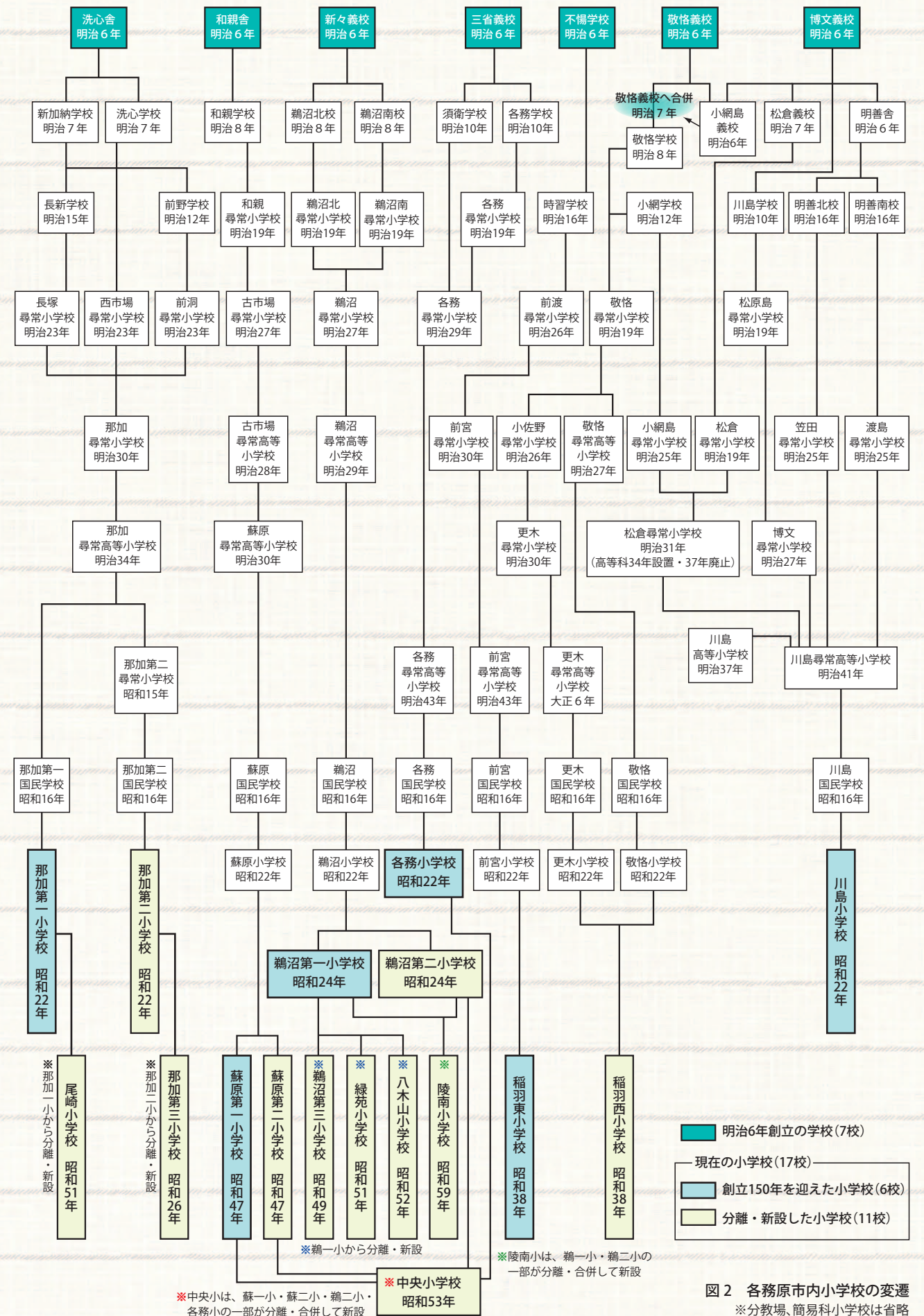


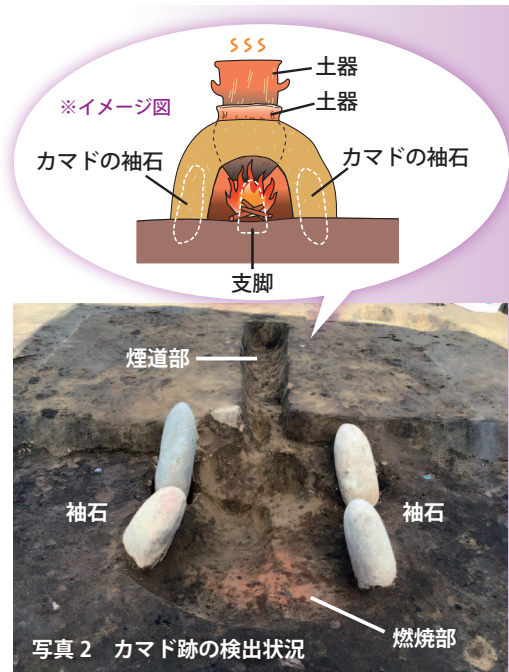
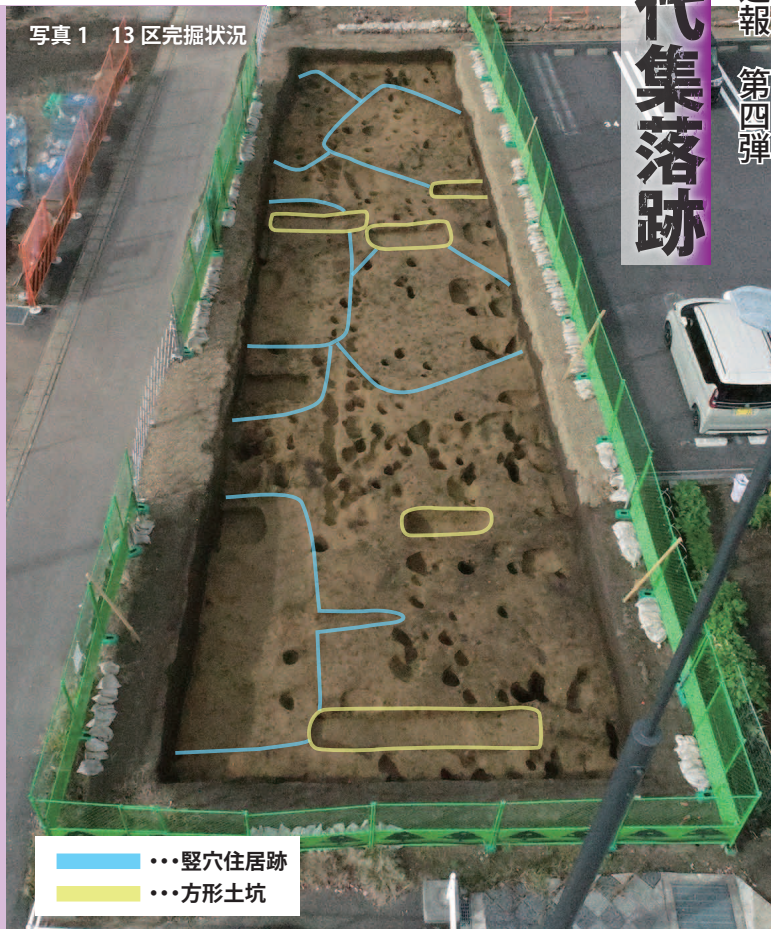
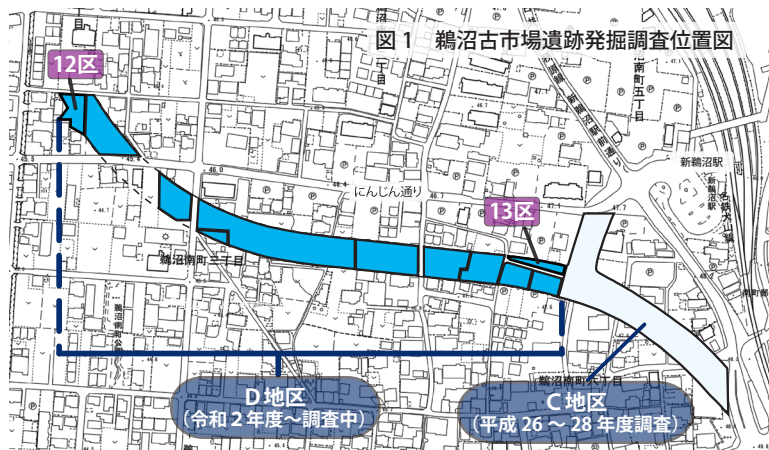
図2 各務原市内小学校の変遷
※分教場、簡易科小学校は省略

鵜沼古市場遺跡D地区発掘調査速報

第四弾

市内最大の古代集落跡

鵜沼古市場遺跡D地区では、令和2年度から都市計画道路「犬山東町線バイパス」第二期建設工事に伴う発掘調査を行っており、令和5年度で4年目を迎えました。今年度の調査は、D地区の西端と東端に位置する12・13区で行いました(図1)。



調査では、古代の竪穴住居跡(12区で1棟、13区で6棟)、中世の方形土坑(12区で23基、13区で5基)が見つかりました(写真1)。竪穴住居内には煮炊きを行ったカマドの袖石と燃焼部、煙道部が良く残っていました(写真2)。

広範囲で見つかった集落跡

12・13区の両調査では、8～9世紀の竪穴住居跡が見つかりました。D地区の1～11区やC地区でも同時期の住居跡が確認され、C・D区の東西500m、南北200mの範囲に120棟もあったことが分かりました。数棟が重なった住居跡が見つかったり、同じ場所でも何度も建て直しながら住み続けたと考えられます。

この集落は、なぜ広い範囲に形成されたのでしょうか。遺跡の位置する鵜沼地区は、古代の官道である東山道が通る場所です。東山道には約16km毎に駅家が設置され、その一つである各務駅は、比定地に鵜沼地区が挙げられています。また、各務駅から次の可児駅へは、鵜沼から木曾川を渡ったと考えられています。つまり鵜沼地区は東山道が通り、駅家が設置され、木曾川の渡河地点でもある、交通上重要な場所と言えます。このように、交通の要衝である鵜沼地区には多くの人が集まり、市内最大の古代集落が形成されたと考えられます。(近藤美穂)

各務原市史編さん事業

刊行に向け進む執筆作業

令和3年4月にスタートした各務原市史編さん事業は、『各務原市史通史編 現代Ⅱ』と、市史の普及版『新発見！各務原の歴史』の二本立てで進めています。

『各務原市史通史編 現代Ⅱ』は、分野ごとに選ばれた執筆委員による執筆委員会を令和5年5月に開きキックオフ。執筆委員がそれぞれ調査・研究・ヒアリング、そして執筆を進めています。6年度には原稿が集まり、それ以降は校正作業を繰り返して、7年度末には刊行する予定です。

『新発見！各務原市の歴史』

『市史通史編』と同時に進めてきた市史普及版『新発見！各務原市の歴史』のタイトルで6年3月に完成しました。

市の歴史を網羅する96のトピックと、9つのカテゴリーごとのコラムを収録。見開き2ページで1つのトピックを取り上げていますので、関心のあるページから自由に読むことができます。

市の未来を担う若い世代に向けてるとともに、今の各務原を生きる大人、親世代にも読んでいただけることを意識しています。市が誕生してから

60年を迎えた今だからこそ、読んでおきたい、手元に置いておきたい、そんな1冊。B5判240ページ、定価1500円で発売中です。

7カ所で古い写真巡回展

市史編さん事業の一環として続けている古い写真の収集。さらに集まった写真の一部を紹介する巡回展「写真で振り返るかかみがはら」も、5年度で3回目となりました。「昔と今」「まちのできごと」「乗り物」の3テーマに沿った新旧44枚を、10月から2月までの5カ月間にわたり、市内7カ所で展示しました(写真1)。



写真1 新旧写真の比較(尾関ストア/那加南栄町)
(写真右・昭和59年)八百屋と店主。主婦層でにぎわっていた。(写真左)現在は店主の孫がリノベーションし、書店となっている。

写真2 巡回展「写真で振り返るかかみがはら」
(イオンモール各務原インター)



せきぞく せきふ
石鏃や石斧など、市内で出土した多数の石器が並びました。
会期/令和5年7月29日～8月27日 会場/中央図書館3階 展示室A



令和5年度 埋蔵文化財調査センター企画展

「石器の魅力」 ～大集合！各務原市の石器～

各務原市には、原始時代の痕跡が市内各地に残されており、石器はとりわけ多く発見されている遺物です。今回の企画展では、市内で発見された旧石器・縄文・弥生時代の石器をテーマに、総点数1万点を超える膨大な資料を一挙に公開しました。

原動力は石器への情熱

この企画展の特色として、埋蔵文化財調査センターで所蔵している遺跡出土品のほかに、市内で石器を採集された方々のコレクションを展示したことが挙げられます(写真1)。

出展いただいた7人の石器コレクターの皆さんは、数百、数千点にもものぼる石器を採集し、その大きさや種類を見極め、額装して保管していました。ガラスのように光り輝く良質な石材や、細部にまで施された鋭利な形状を見ると、石器づくりの難しさが伝わってきます。石器の観察から、当時の製作技術を知ることができます(写真2)。

石器に魅せられたコレクターの皆さんは、自身で集めた石器を見て、「昔の人と一つにつながったような感覚や私の青春を彩ってくれた時間がよみがえってくる」、「何時間もかけて見つけた時の感動は、今でも忘れられない」と仰っていました。長年、市内各地を探し歩くなかで、ここ各務原市にも原始時代に人がいたのだと実感し、「石器の魅力」に惹かれたようです。



かかみがはら百科プラス No.5
(A4・8ページ)
埋蔵文化財調査センターで
無料配布中



写真2 精工につくられた石器



写真1 石器コレクションの展示

関連イベントも好評

企画展会期中は、学会員による展示解説のほかに、石器鑑定を行いました(写真3)。「これは石器ではないか!」と来場者が持参した遺物を学会員と観察するなかで、石器に集約された先人の技術に関心を持っていただけたと思います。

また、「石器はどのようにして作られたのか?」という疑問に答えるべく、学会員が石器製作実験を行い、その過程を写真パネルと動画にて紹



写真3
展示解説(上)と石器鑑定(下)



写真4 石器製作の動画上映



介しました(写真4)。
来場者アンケートでは、「石器作りの高度な技術が感じられた」、「採集者の情熱を実物とともに感じる」とができ、うれしかったです」といった感想をいただきました。

石器から分かる各務原の歴史

各務原市域は、石器が多く見つかる地として知られています。鵜沼三ツ池町の炉畑遺跡では、竪穴住居跡から数多くの石器や縄文土器が発掘されており、長期的に集落があったことが分かっています。また、山岳地帯から流れる木曽川では、豊富な石材を入手することができ、良質な石器作りに適した環境があったと言えます。石器は日常的に使われた道具の一つに過ぎませんが、文字を使う文化がなかった原始時代に生きた人々の生産活動・生活文化を解き明かすカギです。

埋蔵文化財調査センターでは、今後の企画展でも、市内に残る歴史の痕跡を紹介するとともに、地域の魅力を発信していきます。

(三浦 薫平)

石器展を見学する来場者



令和5年度 歴史民俗資料館パネル企画展

「戦国の各務原」

各務原市域は、戦国時代、何度も合戦の地となりました。尾張国から軍勢が木曽川を越えて各務原に攻め込み、勝利した者が天下に近づく。「各務原を制するものは天下を制する」と言っても過言ではないほどの戦略上の要衝だったのです。本展では、各務原ゆかりの戦国武将や合戦、城郭について、展示パネルで紹介しました。背景写真「昭和初期の伊木山の絵葉書」(個人蔵)



かかみがはら百科プラス No.6
(A4・12ページ)
歴史民俗資料館で無料配布中

人気の高い戦国時代

令和5年は、大河ドラマ『どうする家康』の放送もあり、さまざまなメディアで戦国時代について取り上げられた年でした。本展でも、小牧・長久手の戦いや関ヶ原の戦いに関わる古記録を展示し、各務原ゆかりの武将たちとの関わりについても紹介しました。約1カ月間の展示でしたが、1447人もの方にご来場いただき、戦国時代への関心の高さを実感しました。

関心の高い「城」

来場者アンケートで「訪ねてみたい各務原の史跡」について聞いたところ、伊木山城をはじめとする「城」について興味のある方が多いことが分かりました。

市内の城は、いずれも建築物が残っていない、いわゆる「城跡」です。しかし、曲輪や切岸などの遺構や、木曽川や濃尾平野を一望できる景色など、それぞれに魅力があります。ぜひ城に行ってみようという意見が多かったため、3月に伊木山城に登る野外セミナーを企画しました。

伊木山城を見る、伊木山城から見る

伊木山城の歴史と遺構

織田信長は、永禄8年に斎藤龍興方から伊木山を攻め取りました。信長は、攻め取った伊木山に砦を築いて美濃攻略の足掛かりとし、鷺沼城・猿塚城などの城を次々と攻略してきました。

現在、伊木山城に残る遺構としては、6つの曲輪(城郭において人工的に造られた平地の区画)(図1)と石垣があります。曲輪には、兵士が駐屯する空間という役割があります。曲輪と曲輪の間には斜面の土を削ったり盛ったりして人工的な崖が造られており、一つ上の曲輪への敵の侵入を容易に許さないような構造になっています。

さらに平成12年の発掘調査で、曲輪の崖面の一部に石垣が確認されています。2m以上の高さが想定される箇所もある、裏には排水を円滑に行うための「裏込め石」が用いられた、立派な石垣です。ただし、石垣は保存のために埋め戻していることを、あらかじめご了承ください。

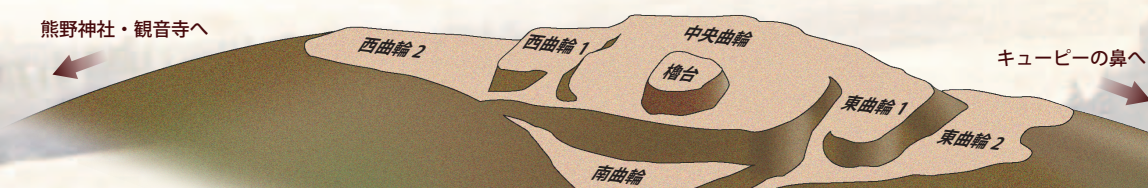
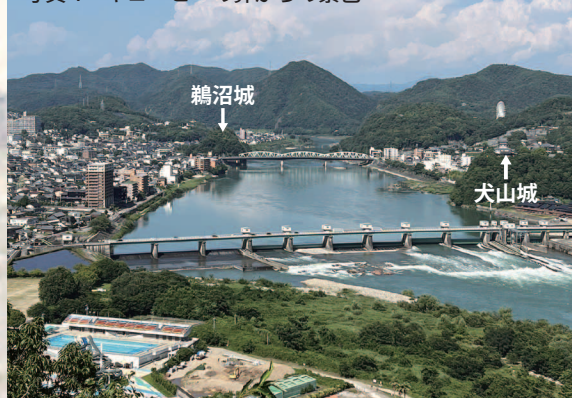


図1 伊木山山頂・伊木山城の曲輪のイメージ

信長も見た景色

伊木山城のような山城には、見張り台という役割もあります。伊木山の東側の山頂である通称「キューピーの鼻」からは、右側に信長が築いた小牧山城、攻め落とした犬山城、木曽川を挟んで左側に鷺沼城や猿塚城が一望できます(写真1)。信長も伊木山から各方向を眺めつつ策を練り、自身のこれまでとこれからについて、思いを巡らせたことでしょう。多くの方に伊木山に登っていただき、信長も見た景色を、味わっていただきたいと思います。(長谷健生)

写真1 キューピーの鼻からの景色



伊木山に

看板を設置



写真2 山頂の看板



写真3 曲輪の看板

企画展の開催に併せて、伊木山に看板を設置しました。山頂の看板では伊木山城の歴史と遺構について写真2、伊木の森芝生広場駐車場脇の看板では伊木忠次の生涯について紹介しています。また、山頂付近の曲輪に、それぞれ位置を示す案内看板を設置しました(写真3)。

- 講演「1974年 高校生の見た各務原空襲」
歴史民俗資料館 館長 戸崎 憲一
- 講演「B29! 各務原空襲の時期を考える」
各務原空襲資料室調査員 松尾 朋和
- 講演「日本軍戦闘機 各務原空襲のB29 爆撃機を撃墜」
各務原空襲資料室調査員 福手 一義
- プレゼンテーション
「各務原空襲—未来につなぐには—」
岐阜県立各務原高等学校 白石 竜生(3年生)
- 座談会「2023年の高校生が見た各務原空襲」
コーディネーター：戸崎 憲一
登壇者：岐阜県立各務原高等学校のみなさん
白石 竜生(3年生)/高村 瑛祐(3年生)/柳川 悠(2年生)

高校生が見た 各務原空襲

6月18日(日) 会場 / 中央図書館4階多目的ホール

座談会では戦争や空襲について活発な意見が交わされました。
(左から 白石さん、高村さん、柳川さん)

各務原空襲があった昭和20年から令和5年で78年が経過しました。薄れゆく空襲の記憶を次代につなげる試みとして、授業のなかで各務原空襲について調べ、学習した岐阜県立各務原高等学校の生徒の皆さん3人を招き、率直な気持ちを語ってもらいました。

祖父母でも記憶がないという78年前の戦争・空襲は、現在の高校生の心にどう映るのでしょうか。

「各務原には川崎、三菱といった航空機を生産する優れた技術があった。そのせいで強力な爆弾による空襲に見舞われた。不幸な歴史や失敗から学ぶことは多いが、当時の優れた工業力を生み出した成功にも学ぶべきでは」(白石竜生さん・3年生・写真1)。「もし自分が戦争を体験し、後の学生が聞きに来たら、蒸し返さないでほしいと思う。半面、後世に伝えてもう被害者を生まないでくれとも思う」(高村瑛祐さん・3年生)。「現在もウクライナでは多くの命が失われている。学校などでも戦争について向き合う機会をもっと増やせ



写真2 『各務原空襲』
各務原高校郷土研究部

たら」(柳川悠さん・2年生)。など、現在の若者ならではの意見・感想に、会場も大いに沸きました。

このほかにも、各務原市空襲資料室調査員の松尾さん、福手さんの新史料による各務原空襲の研究報告、昭和49年の各務原高校生徒による報告書『各務原空襲』(写真2)の紹介も行われ、地域の歴史を記録し未来へ伝え続ける大切さを、会場の参加者で共有しました。(戸崎憲一)



写真1 各務原空襲について調べた内容を説明する白石さん(右)

令和5年度 各務原市所蔵作品企画展

生誕120周年

「横山潤之助展 - 新しい記憶 -」

横山潤之助は、大正期に前衛グループ「アクション」などで活躍した洋画家です。父・徳次郎は岐南町出身の教育者で、潤之助は横山家で学んでいた渋沢栄一の息子・秀雄から最初に油絵の手ほどきを受けました。

戦後、潤之助は各務原に移り住み、多くの絵を遺しています。横山潤之助の生誕120周年を記念し、市が所蔵する作品を紹介しました。



横山潤之助は、明治36年(一九〇三)に現在の東京都文京区で生まれました。画家を志し、川端画学校で藤島武二に学びます。

大正10年(一九二一)、18歳の時に第8回二科美術展覧会(二科展)で初入選。翌年の第9回二科展には樗牛賞、さらに第11回二科展では二科賞を受賞します。潤之助が20代のころに描いた作品は、東京国立近代美術館・神奈川県立近代美術館・宇都宮美術館に収蔵されています。

市内で描かれた作品

潤之助が画家としての道を歩むなかで、戦況は激しさを増していきます。昭和20年(一九四五)、空襲で自宅、アトリエと作品約3千点を焼失した潤之助は、母方の親戚を頼って愛知県に疎開し、終戦後は岐阜市の病院で看護師として働きました。潤之助が再び絵を描き始めた時期は、昭和30年、那加町(現各務原市那加地域)に移り住んだところからといわれており、昭和46年に亡くなるまで、花や風景、身近なものをモチーフに、主に写実的な作品を数多く描きました。会期中、潤之助が住んで

いた那加雄飛ヶ丘町の方が多く来館され、「風景画は、詳細には描かれていないが、当時の雰囲気や匂いを感じることができると懐かしむ声が聞かれました。



雄飛ヶ丘夜景 1958年

所蔵作品の活用について

本展では、目録以外にも、所蔵作品の解説や他の公立館が所蔵する潤之助作品を併せて紹介する小冊子を配布しました。

今回は、市外からの来館者も多く、アンケートには、市にゆかりがある作家作品のほか、さまざまな美術作品を見たいという要望や会期の告知方法などの意見が寄せられ、今後の

作品54点のほか、潤之助愛用のモチーフやスケッチなども展示しました。



会期 / 令和5年10月28日～11月26日
会場 / 中央図書館3階 展示室A・B

課題となりました。

また、作品鑑賞の在り方について記した感想も多く寄せられました。来館者が静かな環境でゆっくり鑑賞できる場を保ちつつ、若い世代や子どもたち、そして障がいのある方も楽しんで鑑賞できる場の創出と、アートを介して生きる活力を見出せる展示内容についても考えていく必要性を感じました。(廣江貴子)

各務原市
にも生息！

図解・オオサンショウウオ

オオサンショウウオは世界最大の両生類で、国の特別天然記念物に指定されている生き物です。まさに「国の宝」と言える貴重な生き物が、各務原市にも生息していることをご存じでしょうか。今回は、そんなオオサンショウウオの生息などについて紹介します。

分布と生態

オオサンショウウオ（下図）は、主に西日本の河川上流域～中流域で生息が確認されており、中でも岐阜県は生息地の最東部であると言われています。大きいものでは体長約150cmになり、大昔からその姿かたちを変えていないことから、「生きた化石」と呼ばれます。

体は平べったく、その形状をいかして普段は岩陰などの狭いところにじっと隠れています。夜行性で日中は基本的にあまり動かない上、夜で

も歩きや泳ぎはゆっくりです。

これだけ間くとゆったりとしたイメージを持つてしまいますが、食事のときはまた違った姿を見せてくれます。空腹になると狩場と呼ばれる場所に移動し、魚や昆虫などの獲物を待ち伏せます。獲物が目の前を通りかかると、その大きな口を目にも止まらぬ速さで開け、ばくっ！と一気に口の中に入れてしまいます。満足に食事ができたら岩陰に戻り、また数日はじっとするようです。

小さい子ども（幼生）のうちは捕食されるがありますが、大人（成体）になるころには天敵はほとんどいなくなりま。まさに川の生態系の頂点に立つ王者と言えるでしょう。

市内では、木曽川で生息が確認されています。これらの個体は、元々上流の飛騨川にいた個体が大雨などで下流の木曽川に流され、水温や岩陰などの環境が良かったため、そのまま定着したものと考えられます。

国の特別天然記念物に指定

オオサンショウウオは、その学術的価値、世界的な知名度の高さから、国の特別天然記念物に指定されています。天然記念物は、動植物やこれらが豊富に生息する場所などで、私たちの住む地域、ひいては日本を語る上で欠かせない重要なものが指定されます。その中でもさらに貴重と認められるものが特別天然記念物となります。オオサンショウウオは、私たちが将来にわたり受け継いでいくべき「特別な「国の宝（文化財）」なのです。

「国の宝」を保護していくため、文化財保護法では私たち人間が守るべきルールを定めています。

例えばオオサンショウウオは、緊急対応を除き、国や市の許可なく捕まえたり、触ったりすることができません。見つけたらむやみに近づかず、そっと見守ってあげてください。道路上を歩いているなど、放置するとオオサンショウウオに危害が及びそうな状況に遭遇したときは、市文化財課までご連絡ください。

また市では、秋に県内の高校等に

ご協力いただき、小中学生向けの親子観察会を行っています。間近でオオサンショウウオを見て、触れることのできる人気企画です。広報紙や市ウェブサイトなどでお知らせしますので、ぜひお申し込みください。

在来種をめぐる問題

オオサンショウウオの文化財的な価値の中で、日本に古くから生息している生き物（在来種）であるという点は、特に重要なポイントの一つです。しかし近年、日本全国の生息地で在来種の生息が脅かされています。外来種との「交雑」の問題です。

交雑は、純粋な在来種同士による生殖活動の機会が減少することにつながります。これは純粋な在来種の減少に直結する重大な問題です。

市内の生息地でも、昨年初めて交雑種の個体が確認されました。生息地における交雑がどこまで広がっているかは今のところ不明ですが、市では、今後も関係機関と協力しながら調査・情報収集を続け、交雑種の把握など、在来種の保護のための取り組みを行っていきます。（福井隆士）

鼻
成体は、肺呼吸をするときに水面から鼻を出す。においに敏感で、獲物を探すときに使う。

目
体の大きさに似合わないつばらな瞳。どれくらい見えるのかはよく分かっていない。

口
とにかく大きく開く。上下のあごの縁には小さい円錐形の歯が200本以上並ぶ。噛む力が強いので危険。

前足
指は4本。裏側には粘液がなく、その足でしっかりと踏ん張って岩や斜面を登る。

皮膚
全体が粘液に覆われ、ぬるぬるしている。ストレスを感じると白い粘液を出す。

後ろ足
指は5本。前後の指の数は両生類に共通する特徴。前足同様、裏側には粘液がない。

斑紋
日本の在来種は、茶色の地に、大きめの黒い斑点（斑紋）が不規則に並ぶのが特徴（写真）。



写真 木曽川のオオサンショウウオ
同じ在来種でも、皮膚の色や斑紋の色・数には微妙な地域差がある。例えば木曽川のオオサンショウウオは、暗めの茶色の地に、黒い斑紋がびっしりと不規則に並んでいる個体が多い。

幕末のピアノ

市内で見つかった英国製ピアノ

令和元年、那加吾妻町で1台のピアノが発見されました（写真1）。見るからに歴史を感じさせる小型のピアノで、文化財課で調査したところ、国内でも珍しい歴史あるピアノであることが分かりました。

ピアノを製造したのは、19世紀に英国ロンドンでピアノの製造・販売を行っていた「ジョージ・ピーチー（George Peachey）社」。19世紀中ごろのものとみられる同社の広告（写真2）には、1851年開催のロンドン万博で、水晶宮※に同社のピアノが展示されたことが記されています。ジョージ・ピーチー社は現存せず、ピアノの調査は困難を極めました。が、ロゴ部分に記載された工房の所在地（73 Bishopsgate Street Within）から、1832〜66年に製造された

ことが判明しました。国内に現存する最古のピアノであるシーボルトのピアノ（1819年製）には及ばないまでも、日本では江戸時代末期にあたる時期に作られた、歴史あるピアノであることが確認されました。

空襲を免れ那加中の校歌を生む

なぜ、幕末のピアノが各務原市内にあったのでしょうか。このピアノを愛用していたのは、那加中学校で教師をつとめ、昭和23年制定の同校の校歌を作詞した宇野湊子さんと、妹の彩子さんでした。

宇野家の日記には、戦前に暮らしていた東京でピアノを購入した記録がありました。ピアノは、一家の疎開とともに那加へと移り、大戦中の空襲を免れ、今日まで保存されてきた可能性があります。

市民のご厚意で修復へ

ピアノの発見者であり、宇野湊子さんの姪にあたる宇野美保さんの「ピアノを残したい」という思いを受け、保存方法を模索していたところ、市内の方から修復の申出がありました。

「ピアノを修復し、音色を市民の皆さんに届けたい」とご提案いただいたのは、音楽や芸術の振興を行う「日本文化創生協会」の代表理事を務める井戸輝夫さん。お申出を受け、シーボルトのピアノを含め数多くの歴史的ピアノを修復してきた、栃木県の「小野ピアノ工房調律センター」で、修復作業が行われました（写真3）。

甦ったかつての姿と音色

工房での調査を経てスタートした修復作業では、古楽器修復ならではの課題が連続しました。当時のピアノ

令和元年に各務原市内で発見された1台のピアノは、19世紀、英国ロンドンで製造された貴重なアンティークピアノでした。現代のピアノとは大きく異なるこのピアノは、専門の工房での修復を経て、ついにかつての姿と音色を取り戻しました。

※水晶宮（Crystal Palace）

第1回ロンドン万博の会場としてハイドパークに建設された建物。鉄とガラスで造られ、万博後は移築されたが、火災により焼失した。

写真1.

令和元年のピアノ発見時の状況。那加吾妻町の住宅解体の際、離れの片隅に置かれた状態で発見された。



ノは国やメーカーごとに独自の構造や技術が用いられ、交換が必要な部品があれば、すべて一から作り直す必要があります。現在では製造が禁止されているセルロイドが貼られた白鍵や、羊皮紙を使用したヒンジ（蝶番）など、特殊な部品もすべて同じ素材を調達し、修復されました。

構造面でも、弦が交差しない平行弦やオーバーダンパー（弦の振動を止める装置がハンマーの上部に付くなど、現代では見られない構造・機構が採用されていました。工房によれば、ジョージ・ピーチー社製のものとしては、国内に現存する唯一のピアノだと考えられるそうです。

修復されたピアノは、令和5年11月、新庁舎の完成記念式典の場で公開され（写真4）、記念のミニコンサートでは、豊かで伸びやかなその音色が初めて披露されました。

現在、ピアノは市役所高層棟2階に歴史資料として展示され、開庁時は自由に見学できます（写真5）。また、今後は定期的にピアニストによるコンサートを開催し、甦った幕末のピアノの音色を、来庁者の皆さんにお届けする予定です。（阪野陽介）

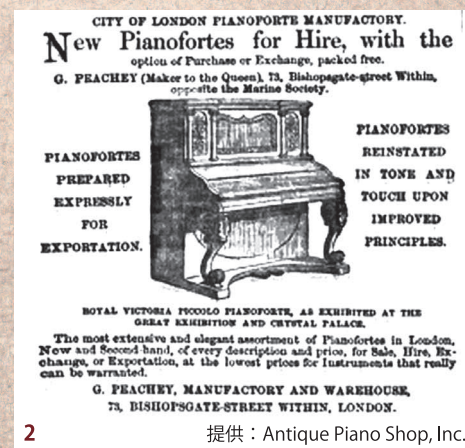


写真5. 市庁舎2階・市政情報コーナーでの展示風景。

■学校関連事業

No.	日	学校名	内 容	人数
1	6月9日	鶴沼第二小学校 6年生	鶴沼宿見学	115
2	6月20日	川島小学校 4年生	地域の歴史	114
3	6月20日	桜丘中学校 1年生	まちの文化財を知ろう	20
4	6月29日	鶴沼第一小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳、二ノ宮神社 狐塚の石棺、町屋館、脇本陣	107
5	9月5日 9月6日	川島小学校 4年生	川島の歴史	120
6	9月20日	那加第一小学校 6年生	那加一校区にある史跡	135
7	9月27日	緑陽中学校 1年生	炉畑遺跡	4
8	9月27日	那加第三小学校 6年生	那加三小の歴史を見てみよう！	66
9	9月28日	那加中学校 1年生	学芸員の仕事について	30
10	10月13日	鶴沼第一小学校 3年生	鶴沼宿見学	104
11	10月26日	陵南小学校 6年生	各務原市の古墳	72
12	11月1日	陵南小学校 6年生	坊の塚古墳、衣裳塚古墳	72
13	11月8日	那加第三小学校 3年生	村国座見学	76
14	11月10日	蘇原第一小学校 4～6年生	創立150年記念講演会 「蘇一小150年のあゆみ」	413
15	11月11日	稲羽東小学校 1～6年生	創立150年記念講演会 「稲羽東小学校の始まり」	132
16	11月14日	蘇原第一小学校 6年生	蘇原の歴史	141
17	11月17日	稲羽西小学校 4年生	伊木山の歴史	45
18	11月18日	那加第二小学校 3年生	各務原の歴史	75
19	11月24日	川島小学校 4～6年生	創立150年記念講演会 「川島の歴史～木曾川の流れとともに～」	394
20	11月28日	稲羽西小学校 3年生	小島三郎	47
21	11月29日 11月30日	鶴沼中学校 1年生	鶴沼宿、天狗谷遺跡、村国座	175
22	11月30日	鶴沼中学校 2年生	職場体験	5
23	12月5日	稲羽西小学校 3年生	地域の歴史	47
24	12月13日 12月14日	中央中学校 2年生	職場体験	5
25	1月17日	稲羽西小学校 6年生	学芸員という仕事	63
26	2月1日	鶴沼第二小学校 3年生	道具とくらしのうつりかわり	107
27	2月1日	各務小学校 3年生	村国座見学	25
28	2月13日	中央小学校 3年生	村国座見学	61
29	2月16日	那加第二小学校 3年生	道具とくらしのうつりかわり	71
30	2月20日	川島小学校 4年生	私たちのくらしと伝統産業～ 各務原の絵絹産業～	114
31	3月5日	各務小学校 6年生	船山古墳	33

■出前講座・職員講師派遣

No.	日	団体等	内 容	人数
1	4月22日	濃尾・各務原地名文化研究会	江戸時代に破壊された各務原の古墳	111
2	5月15日	シニアクラブ持田寿会	まちの文化財を知る・守る	28
3	5月16日	川島ライフデザインセンター	各務原の戦国時代	25
4	5月16日	中央ライフデザインセンター	壬申の乱と村国男依	40
5	5月19日	川島ライフデザインセンター	各務原の戦国時代	40
6	5月20日	各務原歴史研究会	坊の塚古墳築造の前後	70
7	5月23日	中央ライフデザインセンター	旗本坪内氏と各務原	40
8	5月26日	川島ライフデザインセンター	各務原の戦国時代	80
9	5月26日	ヒストリー各務野会	各務原の偉人・万里集九	20
10	5月28日	いきいき楽習課	各務原の地層を知ろう	20
11	5月30日	中央ライフデザインセンター	養蚕山人と各務原	40
12	6月4日	岐阜県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門実行委員会	絵絹について	8
13	6月6日	中央ライフデザインセンター	市川百十郎と各務原の地歌舞伎	40
14	6月11日	鶴沼南町住みよい町づくりを 考える会	鶴沼南町の歴史	30
15	6月24日	市広報課	古くて新しい商店街の使い方	20
16	6月24日	JAぎふ	御膳粃	170
17	7月12日	中央ライフデザインセンター	歌は世につれ 一写真と昭和歌謡で振り返る各務原	40
18	7月21日	市教育センター夏季教員研修	合戦の地、各務原の歴史を学ぶ	67
19	7月23日	一宮市尾西歴史民俗資料館	関ヶ原合戦前哨戦 新加納の戦い	28
20	8月4日	市教育センター	小学生のキャリア教育のための 職場研修	4
21	8月25日	ふるさと楽会	伊木清兵衛忠次	20
22	8月29日	岐阜県歴史資料保存協会	旗本前渡坪内氏の戊辰戦争	80
23	9月2日	各務原PTA連合会	各務原市元氣祭り 絵絹体験	30
24	9月9日	岐阜市・ぎふ魅力づくり推進部	池田家老・伊木清兵衛と岐阜城	75
25	9月20日	中山道鶴沼宿ボランティアガイドの会 ・江南市歴史ガイドの会	室町時代の詩人 万里集九と江南・各務原	30
26	9月22日	ふるさと楽会	絵絹について	17
27	10月5日	ライフカレッジ那加	御膳粃	53
28	10月8日	市教育委員会総務課	かかみがはらけんてい	12
29	10月10日	中央ライフデザインセンター	新加納の歴史	40
30	10月11日	市教育委員会総務課	かかみがはらけんてい	25
31	10月11日	池田町郷土史の会	前渡不動山、大牧1号墳、炉畑遺跡	10
32	10月12日	ボランティアハウス 大牧いきいきサロン	まちの文化財を知る・守る	13
33	10月24日	中央ライフデザインセンター	鶴沼発着、万里集九の関東北陸旅	40
34	10月25日	東ライフデザインセンター	伊木清兵衛忠次と伊木山城	12
35	10月28日	中山道鶴沼宿 ボランティアガイドの会	あの日の学び舎 ～各務原の学校 150 年の物語～	17
36	10月31日	中央ライフデザインセンター	各務原市の石器時代	40
37	11月7日	中央ライフデザインセンター	各務原市の史跡、名勝、天然記念物	40
38	11月10日	南知多町教育委員会	村国座について	11
39	11月14日	中央ライフデザインセンター	御膳粃～各務原のお米を学ぼう～	25
40	11月16日	大垣市上石津文化財保護協会	村国座について	27
41	11月21日	中央ライフデザインセンター	動画『各務原の歴史事件簿』から 学ぶ各務原	40
42	11月24日	ボランティアハウス ばじ東風	各務原の縄文時代 炉畑遺跡	24
43	11月26日	栄える会各務原支部	村国座について	38
44	11月28日	中央ライフデザインセンター	村国座について	19
45	1月11日	豊友会中部支部	坪内氏の歴史	25
46	1月16日	市教育センター初任者研修	各務原の文化財と史跡	27
47	1月21日	木曾川河畔の文化的景観を守る会	歴史ギャラリー解説	18
48	1月26日	ふるさと楽会	各務原市域の古墳築造集団	16
49	3月2日	市観光交流課	平和学習 グラムの歴史	8
50	3月23日	各務原歴史研究会	旗本坪内氏の戦国と幕末	50



教員初任者研修

ヒストリーウィンドウ
「福よ来い 福助人形」

中央中学校 / 職場体験

陵南小学校
坊の塚古墳見学川島小学校
各務原の絵絹産業鶴沼第二小学校
道具とくらしのうつりかわり

■企画展

「石器の魅力」大集合！各務原市の石器」
会 期／7月29日(土)～8月27日(日)
会 場／中央図書館3階展示室A
来場者／1012人

「戦国の各務原」

会 期／9月2日(土)～10月1日(日)
会 場／中央図書館3階展示室B
来場者／1447人

「関連講演会①」

「徳川大坂城東六甲採石場と伊木三十郎」
講 師／竹村忠洋 芦屋市教育委員会
開催日／9月2日(土)
会 場／中央図書館4階多目的ホール
受講者／74人

「関連講演会②」

「旗本徳山秀現の戦国時代」
講 師／入江康太(岐阜県歴史資料館)
開催日／9月16日(土)
会 場／中央図書館4階多目的ホール
受講者／75人

「生誕120周年 横山潤之助展」新しい記憶」

会 期／10月28日(土)～11月26日(日)
会 場／中央図書館3階展示室A・B
来場者／984人

「関連講演会」

アートクロストーク

「画材から読み解く横山潤之助」

講師／渡邊都夫(修復研究所二十一所長)

開催日／11月5日(日)

会 場／中央図書館4階多目的ホール

受講者／23人

■ヒストリーウィンドウ

会 場／市役所本庁舎1階展示コーナー

①「初公開！市民が発見した考古資料」

会 期／4月3日(月)～6月30日(金)

②「半鐘が伝える戦争」

会 期／7月3日(月)～9月29日(金)

③「石器の魅力」各務原市の石器」

会 期／10月2日(月)～12月22日(金)

④「福よ来い 福助人形」

会 期／12月25日(月)～

令和6年3月22日(金)

■アートウィンドウ

会 場／市役所本庁舎2階展示コーナー

①かかみがはら@えぎぬⅡ

「上村俊明 伝統の材料・様式に魅せられて」

会 期／4月3日(月)～6月2日(金)

②かかみがはら@えぎぬⅢ

「向井大祐「遊絲描」」

会 期／6月5日(月)～8月4日(金)

③かかみがはら@えぎぬⅣ

「河村尚江 各務原の夏を彩る」

会 期／8月7日(月)～9月29日(金)

④「横山潤之助展」いづれの」

会 期／10月2日(月)～12月22日(金)

⑤「坪内節太郎展」このはな」

会 期／12月25日(月)～

令和6年3月22日(金)

■巡回展

「写真で振り返るかかみがはら③」

会 期／10月1日(日)～

令和6年2月29日(木)

会 場／川島ライフデザインセンターほか

■かかみがはら歴史の時間

「高校生が見た各務原空襲」

◇各務原空襲をテーマに、現在の高校生によ

る調査報告と座談会、市民による研究発表な

どを行った。

開催日／6月18日(日)

会 場／中央図書館4階多目的ホール

受講者／76人

■まいぶん講演会

「美濃の終末期古墳と群集墳を考える」

◇鶴沼地区の首長墓と群集墳を分析し、

7世紀の古墳時代社会を読み解いた。

6

講師／中井正幸(岐阜聖徳学園大学)

開催日／11月11日(土)

会 場／中央図書館4階多目的ホール

参加者／59人

■イオンモール各務原インター共催イベント

ヒストリービューイング

「目でふれる各務原の歴史」

◇イオンモールと共催で、大型ビジョンを活

用した市の歴史・文化に関する講演会(6テ

マを行った)。

期 間／令和6年1月14日(日)

会 場／イオンモール各務原インター

受講者／430人

■各務原野外セミナー

「かわしま歴史さんぽ」

◇明治40年の『木曾川水行絵図』を見ながら、

現在も残っている堤防跡などを確認した。

開催日／令和6年3月9日(土)

場 所／川島地域

受講者／14人

「伊木山城攻略」

◇織田信長的美濃攻略の第一歩となった伊木

山城と、伊木山に点在する史跡を巡った。

開催日／令和6年3月20日(水)

場 所／伊木山

受講者／30人

■夏休み子ども講座

「各務原の戦国時代を学ぼう」

◇小学生を対象に、戦国時代に使われていた

刀や火縄銃などの武器、古文書に直接触れて

学ぶ講座を開催した。

開催日／8月3日(水)

会 場／中央図書館4階研修室

受講者／21人

■かかみがはら寺子屋事業

「オオサンショウウオ調査隊2023」

◇木曾川に生息する特別天然記念物「オオサン

ショウウオ」の調査に、小・中学生とその保護

者が参加し、生態などを学んだ。

開催日／11月5日(日)

場 所／木曾川河川敷

受講者／26人

■各務原市史編さん委員会

◇現在執筆・編集中の各務原市史および普及

版の進捗、内容構成などについて審議した。

開催日／5月11日(木)

令和6年3月28日(木)

会 場／中央図書館4階第2・3研修室

■講座事業

「古文書講座(初級)」

◇「鶴沼宿本陣校井家文書」など郷土に残る資

料を使い、古文書読解の基礎を学習した。

開催日／6月～令和6年1月

(第一土曜日・全8回)

会 場／那加福祉センター学習室

受講者／15人

「埋蔵文化財調査センターレギュラー講座」

・勾玉づくり／1回・6人

■古文書ボランティア目録作成事業

◇市民ボランティアを募り、近年寄贈された

「永田家文書」について、解説・整理・目録化

を行った。(全20回)

会 場／那加福祉センター学習室

参加者／15人

■博物館実習生の受け入れ

8月22日(火)～25日(金) 1人

■刊行物

『新発見！各務原市の歴史』

『鶴沼上古市場遺跡F地区発掘調査報告書』

■来館者数

○歴史ギャラリー(中央図書館3階)

○木曾川文化史料館(川島会館4階)

※令和6年2月末現在

5857人

1346人

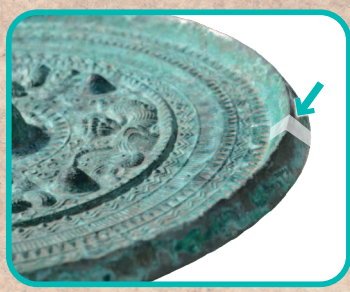
もっと知りたい! いま・むかし

まるくて、表はツルツル、裏にはもよう。
Q いったい、なんの道具かな?

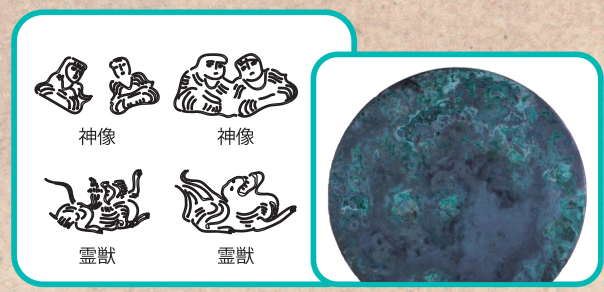


さんかくぶちは もんたい
三角縁波文帯
し しんに じゅうきょう
四神二獣鏡

これは、銅でできた鏡、「銅鏡」です。
正しくは「三角縁波文帯四神二獣鏡」といって、古墳の中に大切に
納められていました。
当時、銅鏡は貴重品で、力のあるリーダーしか持てませんでした。
この銅鏡は、鵜沼にあった「一輪山古墳」から出土したもので、今
から 1600 年以上も前のものです。
緑色なのは銅が錆びてしまっているためで、元々は金色に輝いて
いたと思われます。



縁の断面が三角形になるため、
「三角縁」といいます。



裏面に4体の神像と2体の霊獣が描かれています。いっ
ぽう表面はツルツルで、姿を映すことができました。



ちゅうおうとしょかん かい れき し
中央図書館3階の「歴史ギャラリー」には、「三角縁波文帯四神二獣
鏡」(レプリカ)のほか、土器や勾玉などを展示しています。
かかみがはら し な か もんぜんちよう
各務原市那加門前町3-1-3 各務原市立中央図書館3階